

福島は今…見通しの立たない復興・汚染水処分

新聞切抜帳

原発汚染水（トリチウムを含む）

定まらぬ処分法 (2018.8.31 朝日新聞)

『「海へ放出」反対意見続出』

漁業者「操業に打撃」

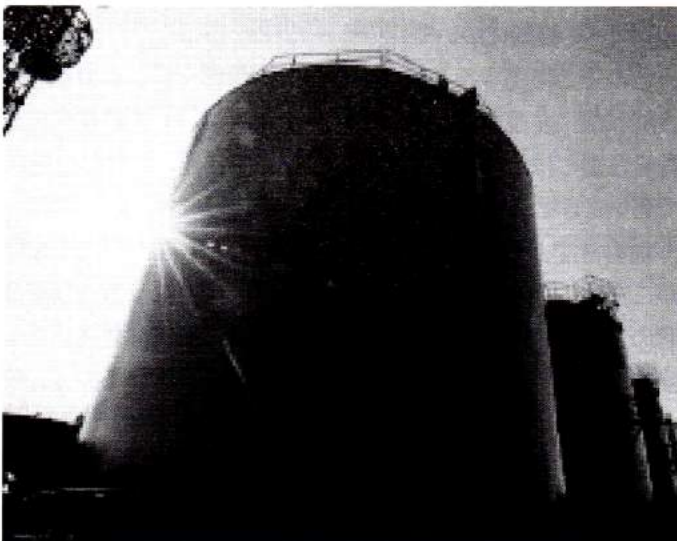
地元で政府公聴会 (2018.8.31 愛媛新聞)

東京電力福島第1原発の汚染水は、薄めれば海に捨てていい……。そんな政府の考えは、公聴会で真っ向から否定された。

経済産業省が専門家を集め、汚染水の処理方法を検討し始めたのは2013年末。この3ヵ月前、安倍首相は東京五輪誘致の場で、世界に向けて発言した。「(汚染水)の状況はコントロールされている」当時、大量発生する汚染水が貯蔵施設から漏れ、海洋に流れ出る問題が浮上したばかりだった。福島の人たちはその発言に呆気にとられた。

原発事故の避難者や漁業者にとって、問題の根っこには、五輪までに汚染水問題の解決策を見出したい政府と、費用を安く抑えたい東電への不信感がある。

公聴会の参加者は、汚染水に複数の放射性物質が残留していることに、強い疑念を示した。再浄化など手法の見直し以上に、地元との信頼関係が必要ではないか。それなしに、汚染水の放出はありえない。



▲東京電力福島第一原発構内に並ぶ、汚染水浄化後に残る「トリチウム水」の貯蔵タンク群

福島処理水の基準超え

変わらぬ東電の隠蔽体質 (2018.10.3 毎日新聞)

福島第1原発の汚染水を浄化した処理水の8割超で、トリチウム以外の放射性物質の濃度が国の排出基準を超えていることがわかった。東京電力と政府は基準超えを当初から知っていたが、積極的に公表してこなかった。東電によれば、8月時点でタンクに貯蔵していた処理水89万トンのうち75万トンは、トリチウム以外の放射性物質を浄化しきれていなかった。基準の100倍以上の放射性物質を含む処理水だけで、6万5000トもあった。

かつて安倍総理が全世界にむけて発信した「アンダー



▲公聴会でトリチウム水の海洋放出反対の意見を述べる福島県新地町の漁師小野春雄さん

コントロール」。大見えを切った手前、林立し増え続ける汚染タンク群は目の上のたんこぶとなっている。

昨年8月末に地元福島（郡山市、富岡町）と東京都の3か所で開いた公聴会では海洋放出反対の声が相次いだ。その後の動きは報道されていない。しかし、経産省の小委員会で検討作業は続けられている。私たちはその動向に注視していかなければなりません。



▲公聴会でトリチウム水の海洋放出反対の意見を述べる福島県漁連の野崎哲会長